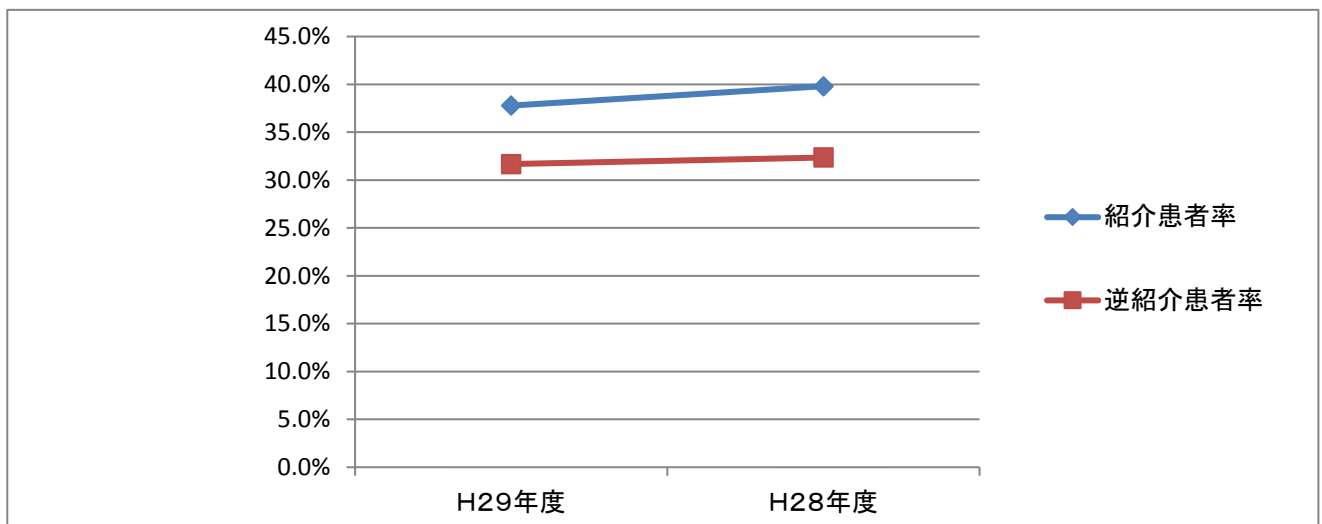


紹介患者率・逆紹介患者率

項目/年度	H29年度	H28年度
紹介患者数+救急搬送患者数（人）	2,667	2,794
内、紹介患者数（人）	1,677	1,800
内、救急車搬送患者数（人）	990	994
初診料算定患者数（人）	7,058	7,018
紹介患者率	37.8%	39.8%
逆紹介患者数（人）	2,236	2,271
逆紹介患者率	31.7%	32.4%

【紹介患者率】＝（文書による紹介患者数＋救急搬送患者数）／初診料算定患者数

【逆紹介患者率】＝文書による逆紹介患者数／初診料算定患者数



紹介患者率とは、当院を受診した患者さんのうち、他の医療機関から紹介されて来院した患者さんの割合のことです。

また、逆紹介患者率とは、当院から他の医療機関に紹介した患者さんの割合の事です。

近年、医療現場は多様化しており、各医療機関の特性や機能を明確化し、地域の医療機関との連携、機能分化を促すことがプライマリ・ケアの視点からも重視されています。

急性期病院等の高度医療を提供する医療機関にだけ患者が集中することを避け、症状が軽い場合は「地域のかかりつけ医」を受診し、そこで必要性があると判断された場合に高い機能を持つ急性期病院を紹介する、そして治療を終え症状が落ち着いたら、その後の継続した観察を「地域のかかりつけ医」へ紹介し任せる、これを相互理解の上で協力することで、地域の医療連携を図ります。

紹介患者率・逆紹介患者率の数値は、地域の医療機関との連携の指標であり、これらの指標が高い医療機関は、患者さんの病状に応じた医療の提供に貢献していると考えられます。